

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第一小学校

1. 本年度の学力・学習調査結果の概要について

- ・国語の話す・聞く能力を問う問題は良好な結果でしたが、活用の問題にやや課題がみられました。
- ・算数については、活用の問題が良好な結果でしたが、学力の二極化の傾向が表れていました。
- ・児童質問紙調査では、「国語・算数の勉強は大切だと思う」と答えた子どもが多くみられました。また、「国語・算数の授業の内容はよく分かる」と答えた子どもも多くみられました。
- ・基本的な生活習慣や自学自習力の獲得にやや課題がみられました。
- ・「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」と全員がこたえていました。また、自尊感情や規範意識も高い傾向がみられました。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく書くことや読むことは、昨年同様正答率が約80%あり良好でした。 ・言語に関する知識や理解を問う問題は、昨年度より正答率が20ポイント以上上がっていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、適切なものを選択するなど読解力を問う問題の正答率が約60%で課題がみられました。
国語 B 〈主として活用〉	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことの領域の問題の正答率が昨年度より10ポイント以上上がっていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、必要な内容を整理して書いたり、自分の考えをまとめたりする問題の正答率が40%以下で課題が見られました。 ・文章を読んで、発言の意図として適切なものを選択する問題の正答率が10%以下で課題がみられました。
算数 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> ・数量関係の領域の問題の正答率が昨年度より10ポイント以上上がっていました。 ・立方体の面と面の位置関係の問題の正答率が90%でよくできていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商を分数で表す問題で、正答率が52%しかなく課題がみられました。 ・加法と乗法の計算の正答率が56.9%と課題がみられました。

- ・数と計算の領域の問題の正答率が昨年度より10ポイント上がっていました。
- ・数学的な考え方に関する問題の正答率が昨年度より4ポイント上がっていました。

- ・仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求める数学的な考え方に関する問題の正答率が19.6%と低く、課題が見られました。
- ・基準量と割合をもとに、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題に課題が見られました。

3. 本校の学力向上に関する現在の取り組みについて



アクティブ・スクール推進事業による学力向上の取り組み

学習指導・学習評価の充実や自学自習力の向上、学習規律等に研究部が中心となって学校全体で取り組み、子ども一人ひとりの学力の向上を目指す。



子どもの主体的・対話的で深い学びの授業実施

校内研の研究授業を通して、子どもの主体的・対話的で深い学びの授業づくりを研究し、それを普段の授業にも生かしていく。



朝学習の実施

朝の時間を活用し、月曜日と金曜日は朝学習、火曜日と木曜日は朝読、水曜日は外国語や漢字・計算を実施して学力の向上を図る。



習熟度別授業（少人数指導）

3年から6年の算数を中心に積極的に習熟度別授業を行い、きめ細かな指導の充実を図る。



ICTの活用

子どもの学習意欲を高める ICT を効果的に活用した授業改善に取り組んでいる。



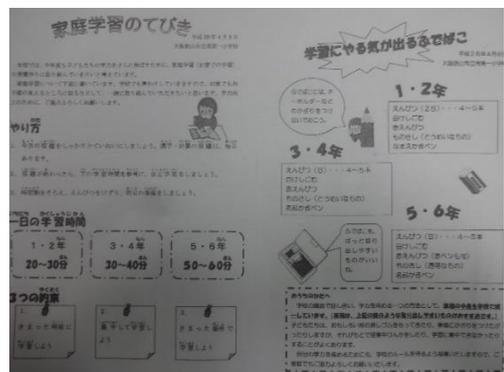
一小タイム（自学自習力の育成）

月1回スマイルチーム（縦割り班）で100級ワークや自ら学ぶノートを行い、教え合う中で、自学自習力を育てる。



読書活動の活性化

週2回の朝の読書やボランティアによるお話し会の実施など読書活動の充実を図り、本好きの子どもを育てる。



基本的な生活習慣や学習習慣

「家庭学習の手引き」を配付し、家庭との連携を強めるとともに、早寝・早起き等基本的な生活習慣も身につくように発信する。

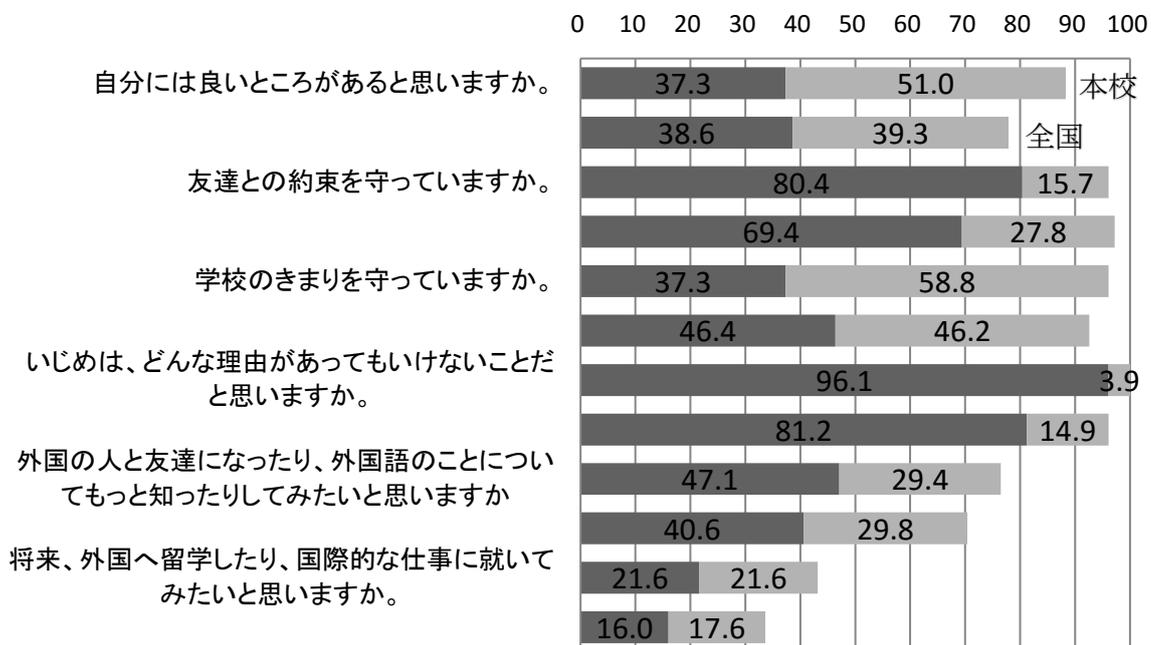
4. 今後の取組みの方向性について

- ・アクティブ・ラーニングの視点から、授業改善の取り組みを活性化し、日々の授業の充実を図ります。
- ・習熟度別指導等の少人数指導を一層取り入れ、きめ細かな指導の充実を図ります。
- ・スマイルチームの活動を通して、一人ひとりが互いに認め合える集団をつくり、安心して学校に通い学習に集中できるように、全教職員が家庭とも連携しながら取り組みます。
- ・家庭とも連携し、家庭学習や「100級ワーク」「自ら学ぶノート」に取り組み、自学自習力の向上に取り組みます。

5. 児童質問紙調査の結果の概要

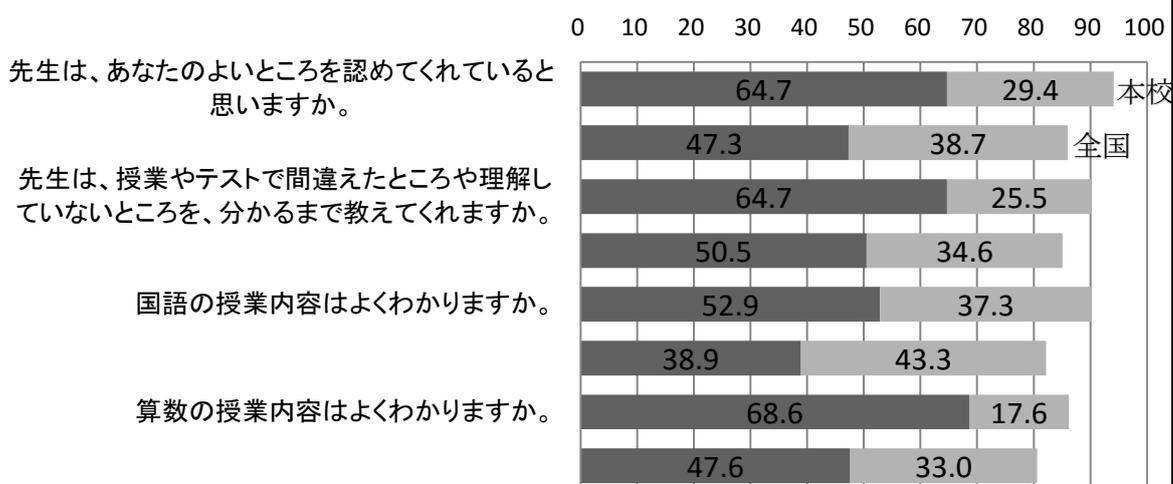
〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉

自分自身について（肯定的評価の割合）



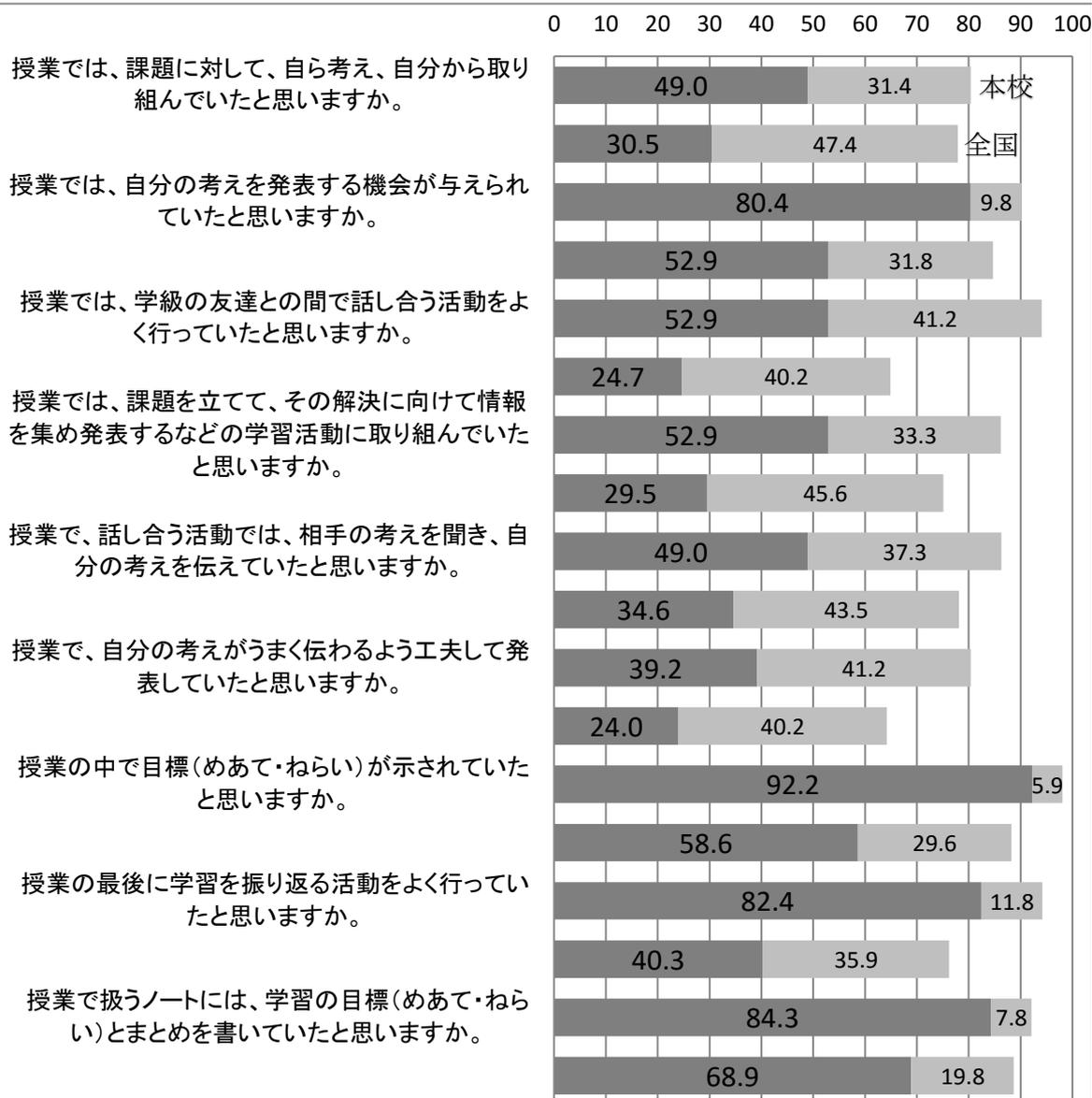
○全校でほめて伸ばす教育を推進している成果が表れているのか、自尊感情が昨年度に引き続き高かったです。また、規範意識も高く、いじめに対しては、全員がいけないことだと答えていました。また、外国に対する興味や関心が全国より高くなっていました。

学校の取組みについて（肯定的評価の割合）



○児童の教師の指導に対する評価は、どの項目も「当てはまる」と、強い肯定的評価が全国に比べて高くなっていました。

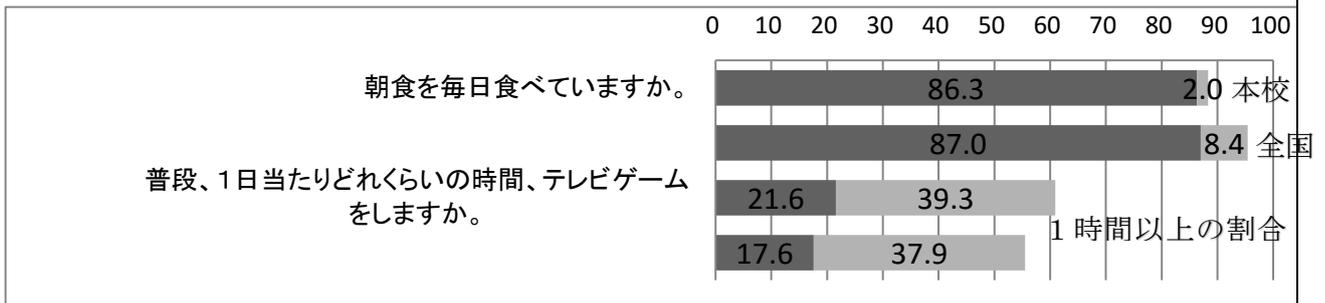
学校の取り組みについて（肯定的評価の割合）



○これまで、日々の授業を大切にし学校全体で校内研究に取り組んできた成果が表れ、どの項目も昨年同様、全国より高い評価になっています。

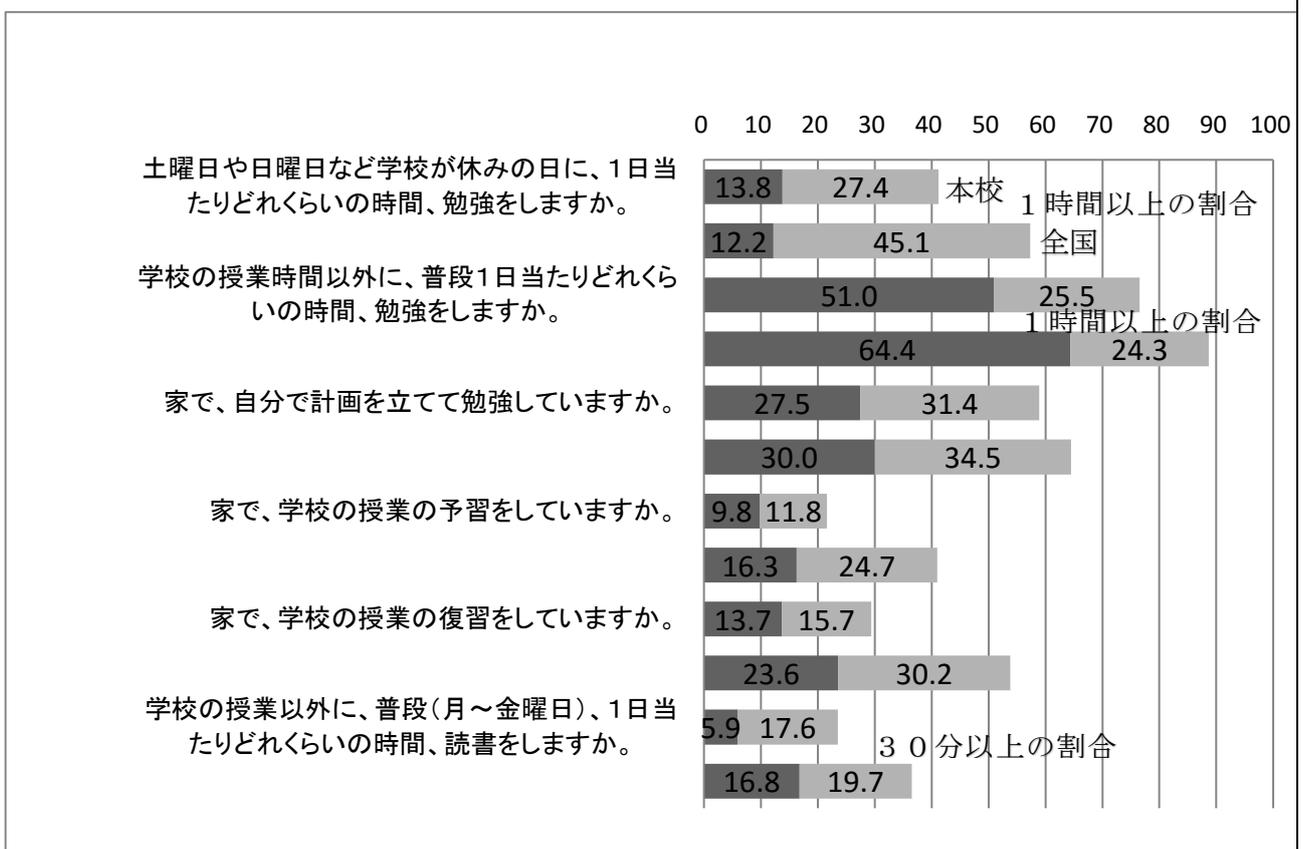
〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

生活習慣について



○昨年度同様、朝食を食べて登校してきている児童の割合が全国に比べて低かった。また、テレビゲームをしている時間も長く、生活習慣について課題が見られた。

家庭学習について



○全国と比べて、家庭での学習時間が少なく、授業の予習や復習もあまりできていませんでした。また、自分で計画して勉強をする割合も全国と比べて低く、家庭学習について昨年度同様、課題が見られた。

6. 保護者・児童のみなさんへ

・国語では、漢字を正しく書いたり読んだりすることはできていました。また、ことわざの意味や、言葉の知識についての理解を見る問題もよくできていました。ただ、文章で答えたりする記述式の問題に課題が見られました。

・算数では、計算は概ねできていましたが、商を分数で表す問題があまりできていませんでした。また、示された資料から必要な数値を選んで答えを見つける問題は、よくできていましたが、割合を正しく表している図を選ぶ問題には課題が見られました。

・質問紙調査では、今年度も国語・算数の勉強は大切なことだと考え、学習に対して前向きに取り組む姿が表れていました。また、「自分には良いところがあると思う」と答えた人が多く、自尊感情が高いこともわかりました。いじめに対しても、6年生全員が「いじめはだめだ」と思っていることがわかりました。先生の言うことはしっかり聞いて、学習していることもわかりました。ただ、自分で学習の計画を立てたり宿題以外の勉強を自分からすることは、あまりできていませんでした。

これからは、宿題だけではなく自由勉強や復習など家庭学習にもしっかりと取り組みましょう。